

理学研究科

教育研究上の目的

理学研究科は、自然の本質を論理的・実証的に解析・考察でき、地域社会および国際社会に貢献し得る高度でグローバルな知識を有して、高度の専門性を要する職業に対して必要な能力に優れたスペシャリストの育成を目指す。

1) 数学専攻

①教育目的

数学専攻は、地域社会や国際社会に貢献する資質を持った「高度な数学的能力を持つ数理技術者」「幅広い知識を活かす数学教育者・研究者」を養成することを目的とします。

②アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

数学に興味を持ち、学部での研鑽をさらに深めたい学生や、スキルアップを目指す社会人を求めています。また、大学卒業時に中学校教諭Ⅰ種免許、高等学校教諭Ⅰ種免許を取得し、大学院修了時にさらに上級の資格である専修免許状の取得を目指し、専門性の高い教員として地域社会への貢献を目指す学生や、統計数学、計算数学をベースとした自然現象あるいは社会現象の数理的な解析などに関心を持ち、国際レベルでの活躍を目指す人材を求めています。

③カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

数学専攻では、理学部数学科で取得した数学の一般知識を前提として担当教員が世界に発信するレベルを目指した研究指導を行うとともに、地域社会や国際社会に多大な貢献が出来る資質を持った専門職業人の養成のための講義科目を配置しています。カリキュラムは代数学・幾何学・解析学・応用数学・数理科学・社会数理の6分野から構成されています。

④ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

数学専攻では、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格した者は、以下の能力を身につけており、地域社会や国際社会に貢献する資質があると判断され、修士（理学）の学位が授与されます。

1. 数学を体系的に理解できる。
2. 研究成果を修士論文としてまとめ、口頭発表できる。
3. 中学校・高等学校の教員として、高度な専門的知識を身につけて、教育・指導ができる。または、統計数学・計算数学をベースとして、自然現象あるいは社会現象の数理的な解析ができる。

2) 物質科学専攻

①教育目的

物質科学専攻は、コンピュータ化された未来の可能性を見通し、物質科学の諸分野において研究・教育を担う人材の育成、特に、産業界に向けた有為な高度専門職業人の育成を目指す。

②アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

物質科学専攻では、研究に対する熱意を持ち、物質科学専攻の教育方針に沿って努力し

地域社会および国際社会に貢献し得る人を受入れる。また、高度な知識をもった理科教員や上級の資格である専修免許の取得を目指す学生を求めている。

③カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

物質科学専攻では、高度に専門的なコンピュータスキルをもつ物質科学技術者を目指す特色あるカリキュラムポリシーを設定している。

1. 全院生がコンピュータに精通することを前提とし、情報科学部門の6科目のうち4科目を必修にしている。これにより、進路の可能性を広げ、地域社会および国際社会に貢献し得る有為な高度専門職業人として活躍できる道を創る。
2. 修士論文研究と特論科目では、それぞれが専門とする分野においてスペシャリストとして高度な知識と技能の修得を目指す。
3. 技術者としての視野をひろげる、サイエンスビジネスセミナーが必修科目に置かれている。

④ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

物質科学専攻では、提出した修士論文と最終試験に合格し、物質科学専攻のカリキュラムにおいて必要単位を修得した者は修士（理学）の学位が授与される。

修士論文審査は研究テーマの妥当性、意義、方法、展開、結果、論文の記載等に関して定められた基準に基づいて行なわれ、合否を決定する。

最終試験は論文発表と質疑応答により合否を決定する。